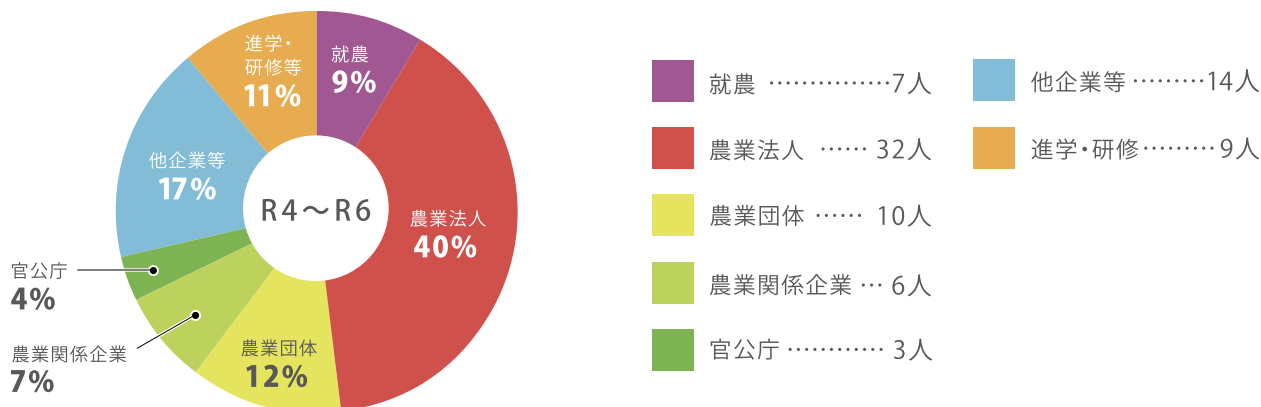


進路状況

Future Course ● 卒業生進路状況(過去3年間R4~R6)

養成科



年度	就農	農業法人	農業団体	農業関係企業	官公庁	他業種等	進学・研修	計
R6	1	9	6	2	0	5	5	28
R5	2	10	2	2	1	7	2	26
R4	4	13	2	2	2	2	2	27
計	7	32	10	6	3	14	9	81

進路先一覧

● 就農／自営就農(7)

● 農業法人／株式会社ベジ・ワン北杜(3) 株式会社浅間園(2) 株式会社植原葡萄研究所(2) 株式会社中村農場(2) ジットファーム株式会社(2) 株式会社Maruesu(2) 営農塾マルニ 奥野田葡萄酒醸造株式会社 株式会社アグリ甲斐 株式会社サラダボウル 株式会社シャトー勝沼 株式会社日之城農場 株式会社フィールドステーション 株式会社ポタジューガーデン 株式会社前森山集団農場 株式会社ルミエール 小池ベビリーフ菜園株式会社 合同会社エバグリーン北杜 敷島醸造株式会社 シミックウェル株式会社 中込農園株式会社 中日本ファームすずなり株式会社 フジッコワイナリー株式会社 丸山産業株式会社 有限会社武川農産

● 農業団体／J A フルーツ山梨(2) J A 梨北(2) J A 笛吹(2) J A 南アルプス市 一般財団法人中央市農業振興公社 笛吹川沿岸土地改良区連合

● 農業関連企業／株式会社アセラ(2) 株式会社サンコー 社会福祉法人山の都福祉会 明友機工株式会社 有限会社前島園芸

● 官公庁／山梨県立高等学校実習助手(2) 長野県南信農業試験場

● 他業種等／株式会社平山(3) 株式会社BackCountry 株式会社いちやまマート 株式会社オギノ 株式会社ネクステージ 株式会社洋菓子舗ウェスト グランドーム富士忍野 生活協同組合ユーコープ

● 進学・研修／専門学校山梨県立農林大学校専攻科(7) 茨城県立農業大学校研究科 誠和アカデミー

養成科に学んで

令和6年度 養成科 果樹学科卒業 自営就農

齊藤 大耀さん



私の家は代々農業を営んでおり「さいとう園」という名で、いちご・ぶどう・すももの三品目を栽培しています。小さい頃から手伝いをしており、その中で農業に魅力を感じ農林高校へ進学しました。

農林高校で学んでいくうちに就農したいと考えるようになり、更に専門的な知識を得るために専門学校山梨県立農林大学校果樹学科に入学しました。養成科1年では果樹・野菜花きといった栽培の基礎を学ぶ他、トラクター等の機械を実際に運転し免許を取るなど農業機械についても学びました。収穫祭では先輩方と一緒に地域の方々に収穫物を販売するなど流通・販売について体験することが出来ました。養成科2年では、現在の農業の課題を分析し改善する「プロジェクト学習」が始まり、生徒主体での栽培を行います。私は「シャインマスカット」について研究を行い、これまで学習した知識や経験を活用して栽培をするのはとても良い体験でした。仲間と一緒に農業を学びながら過ごしたこの2年間は、とても楽しい時間となりました。

卒業後は、新規就農した新たな農地でぶどうを栽培しようと考えています。これからは一人で経営を行っていくので不安はありますが、農林大学校で得た知識や経験をいかし、時には親に助言をもらいながら頑張ろうと思います。そして、山梨の農業に貢献できる農家になろうと思います。

令和6年度 養成科 園芸学科野菜専攻卒業 JAふえふき就職

大原 農永さん



私の祖母は自宅で消費する程度の規模でしたが、畑と水田を持っており、私は、幼い頃からその手伝いをしながら農業に触れてきました。その頃から心の奥底には漠然と農業への想いがありました。高校で進路を考えるようになると、その想いが日に日に強くなり、山梨県立農林大学校園芸学科野菜専攻への進学を決意しました。

2年間という短い期間でしたが、農林大学校では野菜だけでなく、果樹や花きなど、幅広い分野の知識と技術を学ぶことができました。栽培方法はもちろん、選果や袋詰め、販売までを実際に行うことで、農業の現場を肌で感じる事ができました。2年次には、実際に農業経営者のもとで先進農業派遣研修を受け、生の声やノウハウを学ぶ貴重な経験を得ることができました。農業の基礎から専門的な知識まで、多岐にわたる学びを通して、農業への理解を深めることができた2年間でした。

在学中同じ志を持つ仲間たちと出会えたことも、私にとって大きな財産になりました。個性豊かな仲間たちと切磋琢磨し、濃密な時間を過ごしたことで、農業への情熱が一層高まりました。

私は卒業後、JAふえふきに就職します。農林大学校で培った知識と経験を活かし、山梨の農業、ひいては日本の農業を盛り上げる一翼を担いたいと考えています。生産者の方々の声に耳を傾け、地域の特性を活かした農業の発展に貢献できるよう、日々精進していこうと思います。